

経営者への活きた言葉

今も生きているヤマト運輸の車座教育 今村 治輔(清水建設前会長)

1. 大学卒業後、お父様が興したヤマト運輸に入社した小倉昌男さんは、オイルショックで業績が低迷したとき、一般家庭の小口荷物を集配する「宅急便」を始めようと思いました。このときお父様をはじめ、周囲は猛反対をしたそうですが、それも当然でしょう。たった一個の荷物を全国どこへでも運ぶなんて、手間ばかりで儲からないと考えるのが普通です。抜群の実行力と計画性をあわせもつ小倉昌男さんでなければ、ここまでの成功はなかったのではないのでしょうか。
2. まずは各地に営業所を作るところから始めなければなりません。小倉昌男さんは自ら日本中を回り、夜はドライバーたちと車座になって酒をくみかわしながら仕事に対する姿勢を説き、一緒に風呂に入って、そのまま営業所に泊まったそうです。その積み重ねでサービス網を築いていったのです。
3. 働く人を大切にする人でしたが、不正には厳しかった。荷崩れして転がり落ちたミカン一個を、ドライバーが軽い気持ちで食べたとき、即座に解雇したのは有名な話です。街頭でヤマト便のドライバーすがすがしく働く姿を見るたびに、小倉昌男さんの車座教育は生きていると感じます。

(参考:「文藝春秋」2013年新年特別号)

経営者のための社会学

富裕層の中核

1. 億万長者を育む中小企業は特定のジャンルに集積している。例えば、飲食業や小売業といったサービス業、ソフトウェア業界、フランチャイズ加盟店の経営者に資産家は少ない。逆に、超優良企業が多かったのは、ニッチ製造業。特に、①市場規模が3億円以下で大企業が参入してこない②類似品のないオリジナル品③商品が部品でなく完成品—という3条件が揃った分野だ。具体的には、特殊用途の運搬車両や食品機械、防災用品、包装機械などだ。
2. その意味では、不況風が吹き荒れているかに映る大田区などモノ作りの町には、実は資産家が多い。平日の昼間、JR大森駅前を歩いているサンダル、ジャンパー姿の中高年には、数百坪の土地と数億円の現金を持つ隠れカネ持ちがかなり含まれている。

(参考:「日経ビジネス」2012年12月17日号)